

# 韓国幼稚園教育 (三)

——戦後の動向——

李 相 琴

## 1 独立と動乱

一九四五年、第二次世界大戦後独立した韓国はしばらくアメリカの軍政下にはいることになった。すべての面で興奮と混乱状況を免じえない時代であったが、当時、韓国の教育界が当面したもつとも困難な事情は各級学校の教育内容を日本語から韓国語に変えることであった。国語による新しい教科書の編制が最大の役事になり、段階別教育の内容について検討が重ねられ、多くの関係者が動員された。

こういう中で、文字を教えない幼稚園は、比較的安定していたし、また、戦前も幼稚園では日本語常用がそれほどきびしく取りしまられてもいなかったので各園の都合により、各自が再開園されていった。これはまたある意味では、幼稚園が教育当局者の関心事になる契機になったかもしれない。

アメリカ軍政がもたらした教育制度の大変革は六・三制であった。韓国の幼児教育指導者たちは、アメリカの小学校の最低学年または初級段階としての公立幼稚園制度の導入をはかった。一九四八年から独立韓国政府

により教育行政が施行されるようになって幼稚園が学校教育体系の最初の段階として、公教育制度化される構想がねられた。一九五〇年政府は幼稚園義務教育案の成立を発表するにいたった。しかし、その直後、朝鮮動乱がおこりこの案は水の泡と消えさり二度と公論される機会とはなかった。

戦時下の避難首都釜山では到るところに孤児院が設立され正常な幼稚園をひらくことは思いも及ばぬことであった。当時、小学生は公園や公設運動場のあちこちで青空教室の授業をうけ、大学生たちは釜山府民館という劇場にあつまって戦時連合大学の共同講義をうけた。

梨花女子大学校は釜山の山の手に天幕を張り、板でかこった仮校舎で学生たちは地べたにすわって講義をさく避難教育時代に入った。この時、師範大学附属の梨花幼稚園は特別条件で開園した。園庭までは無理であったが窓ガラスもちゃんとはめこまれ、りっぱな板敷きの床がありピアノや遊具がとりそろえられた幼稚園が新築された。これは、全校で一ばん豪華な建物になった。ご殿の

ようなこの幼稚園で嬉々として遊びにふける幼児をみることは、戦火の不安で傷ついた当時の学生、教職員そのほかすべての大人たちに大きなぐさめとはげましかつた。

一九五三年休戦が成立し避難時代は終わったが全国土は焦土化された。もちろん学校も焼失したり破壊された。

以後、教育政策はまず義務教育機関の再建に全力投入し、次いで中等教育機関の整備にとりかかったのだが、多くの財源と長い期間を要した。したがって幼稚園は政策の保護を全くうけられない状態で私的に発展するよりほかなかった。一九七〇年代半ばまで韓国に公立幼稚園が一ヶ所もなかったのは戦争の余波が一つの原因になったといえる。

幼稚園自体の発展には、何らのぞましいいきざしがみえなかったこの時代に、教師教育制度は確実な質的地位を固めた。戦前、二年課程の教育学校、後に三年課程の専門学校レベルまで高められた幼稚園教師養成は、独立後、正規四年制大学の師範大学で養成される制度が成立

した。もちろんすべての幼稚園教師が四年制大学をでるのではなく二年制初級大学制度と併行することにはなっているが、学士幼稚園教師の出現は幼稚園教育の質的向上をはかる重要な意義をもつものである。

戦前、梨花保育学校、中央保育学校、京城保育学校、崇義保育学校の四校が教師養成を専担していたが京城保育学校は、一九四三年に廃校し崇義保育学校は北鮮地域になったので残る梨花と中央がそれぞれ大学課程に昇格した。中央保育学校はその間、保育科を母体にして着実に高等教育機関の基盤を固め終戦後、男女共学の総合大学校として認可を得、保育科は師範大学の一学科に編制された。その後、幼児教育学科と改名し現在に到っている。梨花保育学校はもともと専門学校の一学科として運営されていたので学校全体が総合大学校として出発するとき四年制に編制された。現在師範大学の教育学科学令前教育専攻になっている。いうまでもなく両校の卒業生は幼稚園教育界の指導的役割をはたし、最近の幼児教育ブームに際して献身と活躍をつづけている。

## 2 幼稚園乱立と受験塾化

動乱後、国民学校（小学校）の再建は思うようにはかどらず、あの悪名高いモヤシ教室（過密教室、日本ではスシ詰か）を運営せざるを得なくなった。それどころか二部制授業がさけられず都市の人口過密地域では一時四部制授業もあった。

一九五五年、韓国最初の私立国民学校が梨花女子大学校師範大学の教生実習及び研究機関として附設された。これに次いで別に実習も研究も目的でないただ公立国民学校の悪条件にたまりかねて私立国民学校が開設されはじめた。当時の教育政策としては、すこしでも義務教育問題解決のたしになると思って積極的に奨励したほどだ。とりそろった教育的環境にベテランの教師が配置された私立国民学校はそのまま中学校入学試験の成績に反映されることになる。日本のようにエスカレーター制度はなくても各私立国民学校は入学希望者が門前門市をなしすべての志願者を受け入れられなくなった、それで発展

したのが入学試験である。

このような実状にあおりたてられたのがまた私立幼稚園であった。メンタルテストの練習、返事とあいさつの訓練など本来の幼児教育よりも私立国民学校の入学生数に関心がかたよっていった。

いっぽう、一九六〇年代に入ってTV放送が開始されるや幼稚園々児の番組はまた別の話題をうんだ。合唱、合奏、児童劇等に出演するため幼稚園は特技訓練に熱を入れた。画面にたびたび出演する幼稚園ほど人気があり入園志望者が押しよせる傾向もでてきた。はじめのうちには放送局が幼稚園に出演依頼をしていたが、だんだん幼稚園側から出演機会を交渉する奇現象まででてきた。出演幼児の衣裳費やそのほかの経費は父兄負担だったので、それだけでなくも高い教育費に消費が重なるので父兄もたいへんであった。

一九六〇年代は幼稚園の数がまだ少なく就園率が3%未満で幼稚園教育は特殊階級家庭の特権と認識される傾向があったので、入学準備や技芸訓練などに熱中する幼

稚園が、一般社会から白眼視されるようになった。もちろんこの現象は極く一部の幼稚園にあらわれたものであったが、批判の声は針小棒大にふりかかってきた。新聞の論説にまで幼稚園無用論がかきたてられた。

六〇年代後半に入って私立国民学校の選抜はちゅうせんになりTV出演は禁止された。こういう解決策のよしあしは別として一時の熱病はようやくしずまった。

たまたま世界の幼児教育界では新しい幼児教育運動がもりあがっているとき、韓国の時代錯誤的な一部幼稚園が、教育問題対象になったことは遺憾というよりほかない。しかし、六〇年代はまた着実な発展をもたらした時期でもあった。一九六八年、幼稚園規定が制定され、幼稚園教育課程及び幼稚園施設基準令が公布された。幼稚園教育課程設定は、独立後はじめのことで第一次となる。かたわら、一九六一年に児童福利法が制定され、託児所運営の指針となったが、一九六八年には「未認可託児施設臨時措置要令」が公布され、託児所の整備が行なわれた。この時、託児所は子供の家と命名された。その

数も幼稚園とほぼ同数の五百カ所内外で、六〇年代から七〇年代にかけて韓国幼児教育の一役を果たしたのである。

### 3 七〇年代の動き

まず、海外の情報に目と耳を開けている大学教授側から幼児教育活性化の胎動がありはじめた。長い沈滞期と無政策主義にあせりを感じたのである。七二年か七三年頃、民営研究所の「行動科学研究所」が「幼児教育セミナー」を開催した。参加者は大学教授レベルで幼児教育、心理学、教育学、児童学などの学科へ所属している人たちだった。世界的な早期教育ブームにそくして幼児教育の意味を確認する集会であった。そこで幼児期の重要性、幼児教育の意義、早期教育との違いなどが拳論された。そのとき、ある著名な教授が幼稚園教育否定論を主張した。幼児期が重要であればこそ、家庭で自由に遊ばせばいいのであって、幼稚園にいかせて拘束することはないという論旨だったと記憶している。懐疑論者もい

た。でも大勢は現状のままではいけないというような結論になった。

私たち幼児教育関係の教授たちは話す機会、書く機会があるごとに幼児教育の必然性を強調した。

一九七五年、幼児教育学会が創立された。研究会を重ね、研究誌を発行し、活発な研究活動が展開され、二年後には韓国教育学会の分科研究会になり、現在に及んでいる。会員も年々増加している。学会とは別に教師達の組織は、以前から意欲的な活動をみせている。代表的なのは韓国オリニ（子ども）教育協会、これは Association for Childhood Education International の韓国支部で、一九四八年以来もっとも多くの業績をつんでいる。大韓教育聯合会の「幼稚園教育研究部」は、全国規模で会員数が多く、現職再教育プログラムを続けている。そのほか韓国幼児教育協会、キリスト教幼児教育協会などがある。これらの教員組織がそれぞれ月例研究会、夏休み冬休みを利用した講習会や研修会をひっきりなしに開催し、七〇年代の幼児教育ブームはもりあがっ

ていった。韓国の公立幼稚園は七六年に設立された。ソウルに四カ所、釜山に一カ所の五園が示範的に開園された。この七六年をきっかけに、公立幼稚園は急速に増加され、八〇年代には私立を上廻ることになる。特記することはソウル特別市教育委員会が、史上初めて幼児教育専門家を同委員会奨学士として配置したことである。のち一九八二年には、文教部にも幼児教育担当部署が設けられるに到った。

七〇年代後半期の幼稚園教育の急進展ぶりは研究活動にも拍車をかけた。四年制教師教育機関は前述した梨花女子大学と中央大学の外に徳成女子大学、誠信女子大学、また師範大学ではないが、延吉大学の児童学科、淑明女子大学の児童福祉科学が、それぞれの附属幼稚園や幼児園で、本格的な研究にとりくみはじめた。特に多様な幼児教育プログラム開発の要請にこたえるため、各大学は独自の研究をすすめている。例を上げれば梨花では生活中心プログラム、中央は創意性開発プログラム、徳成はモンテソリ法、延世はオープンシステムなどであ

る。梨花では公立幼稚園増加にともなう新しいタイプのプログラムを開発するため附属国民学校の一室をかりて中程度以下社会階層家庭の幼児に実験的な教育を一年間実施したあと、ソウル市内の庶民アパート地区公立幼稚園で適用する研究も行った。このプログラムの特性は両親教育を併行する点にあり、特に母親のボランティア活動を含み家庭との積極的な関連を試図したことにある。

七九年には、幼児教育課程の改正があり、第二次幼稚園教育課程が発令された。第一次教育課程が日本と同じような生活領域区分で健康、社会、自然、言語、創意的活動（音楽リズム・絵画製作包含）であったが、第二次教育課程では基準を全然異にしている。すなわち生活領域ではなく発達領域に変わった。したがって表現は同じ語句であっても、ねらいが違ってくるわけだ。身体、社会、言語、認知、創意性の各項目をみると、例えば言語は言語発達を意味するものであり、社会は社会的発達を意味する。発達基準になると、当然の結果として個々の幼児の発達に応じた教育でなければならないということにな

る。従来の教育課程では、ややもすると領域別に生活を区切り、言語の時間、自然の時間、体操は健康の時間として運営しがちであった。しかし、発達領域になると一つの活動にいろんなねらいが重なってくる。ままごと遊びをしても社会発達面、言語発達面、創意的発達面などの総合的な指導を伴うという解釈になる。この起源はより心理学的な基準で幼児教育を展望するところにある。

#### 4 跳躍の八十年代

さて、八十年代は韓国幼児教育の最高に華やかな時期であり、これからますますその度を加えることになるであろう。

これまで幼児教育または委託機関は多様に管理されてきた。すなわち幼稚園Ⅱ文教部、子どもの家Ⅱ保健社会部、農繁期託児所Ⅱ農村振興庁、セマウル(新しい村造り)協同幼稚園Ⅱ内務部というようなかたちである。それを一九八一年、内務部のセマウル幼稚園に統合した。名称は従来のところから「協同」という語を削除したも

のだ。一九八二年年末に「幼児教育振興法」が国会に提出され、一九八三年六月、大統領令として公布された。

これによると幼児教育機関は、文教部の幼稚園と、内務部のセマウル幼稚園の二種類にしぼられ、形の上では二元化体制で運営されることになっている。専門家や関係者たちは、日本の幼保関係が固疾化している例を参考に、一元化を提案したが、日本の場合とは事情が違い本軌道にのるまで内務部が管理し、終極的には文教部に帰結することが前提になっていることであった。

とにかく公立幼稚園の増設と、セマウル幼稚園の新設によって幼児の教育機会が、各階層にひろがり就園率は高まっている。

その間、韓国の幼稚園教育は私立幼稚園に依存したものであったが一九八一年を期して、公立と私立の比が転倒することになった。就園率はいまだに低率ではあるが、一九八六年に第五次経済社会開発五カ年計画が終了するまでには、四〇％に上昇する予定である。また九〇年代には幼稚園の公教育化、義務教育化も予想されてい

年度別幼児教育機関現況(1982年現在)

年度 機関	1971 1972 1973 1974 1975 1976 1977 1978 1979 1980 1981 1982											
	公立幼稚園	1	1	1	-	-	5	5	8	26	40	1,922
私立幼稚園	511	530	547	588	611	630	660	713	768	861	1,036	1,312
子どもの家	464	482	516	564	591	607	607	606	611	657	706	} 1,606 (統合)
セマウル 協同幼稚園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	203	
計	976	1,013	1,064	1,152	1,202	1,242	1,272	1,327	1,405	1,558	3,867	5,251

幼児教育機関現況(1982年現在)

区 分		幼 稚 園 数	園 児 数	就 園 率
幼 稚 園	公 立	2,333	85,093	
	私 立	1,312	90,453	
	計	3,645	175,546	11.4%
セマウル幼稚園		1,606	125,100	8.1%
合 計		5,251	300,646	19.5%

る。  
園児の増加にともなって、教師養成も着実に増員されている。前記四年制大学に加えて、国立大学にも幼児教育科が設置されつつある。全国九個国立大学のうち、釜山国立大学と全南国立大学に、すでに独立した幼児教育学科がある。また近年、初等教育養成機関であった教育学が、二年制度から四年制度に準次昇格しつつあり、そこにも幼児教育専攻をおくとの計画もある。これは日本の学芸大学にいたものになるであろう。日本の短期大学にあたる二年制の専門大学で養成される卒業生が大部分、教師の需給に際ることになる。現在二年制四年制あわせて有資格教師は年間四千名にのぼる。  
公立幼稚園と私立幼稚園の差は施設・設備と着実な教育内容にあるという。公



立でも、無償ではないので保育料をさすが、私立にくらべればはるかにやすい。大部分の私立幼稚園は都市に集中しているので、いまのところ公立幼稚園設置は都市地域は保留されている。というのは、保育料のやすい公立に園児がかたよると私立幼稚園が打撃をうけるので、その保護策として抑制している。しかしセマウル幼稚園は都市の要救済地区には設置している。

幼稚園とセマウル幼稚園のちがいは管理が、内務部と文教部というだけでなく、運営のしかたにも差がある。

幼稚園は公私立とも保育時間が、大体3時間から4時間ということになっているが、セマウル幼稚園は7時間から8時間にいたるところもある。セマウル幼稚園は、在園児の20%は無償で、その他の幼児もおやつ程度の負担しかない。セマウル幼稚園の様相はひじょうに多様で、敬老堂や公会堂または役場の会教室などを利用する場合もあるが、りっぱな建物を新築し、ゆきとどいた設備のあるところも多く、たまたま同地域の幼稚園より設備がいいので、幼稚園々児が幼稚園に移りたがることも

ある。セマウル幼稚園はセマウル運動（新しい村造り運動）の一環なので、地域有志の協力が大きいと、いろんな面で幼稚園運営がゆたかになる。

セマウル幼稚園の教育内容は、文教部が作成したものを参考にしており、現職教育も文教部が委託するなど緊密な互助関係にある。日本の幼保関係とは全く違う。

各幼児教育機関の教育内容を実例から見ると、次のようなかたちになる。

#### 例一、公立幼稚園

9 .. 20	登園
9 .. 20 — 10 .. 00	自由遊び
10 .. 00 — 10 .. 10	お手洗い
10 .. 20 — 10 .. 40	うた・リズム
10 .. 40 — 11 .. 00	おはなし
11 .. 00 — 11 .. 55	作業
12 .. 00	帰宅

#### 例二、私立幼稚園

11	11	10	10	10	10	8	8	例三、セマウル幼稚園	12	11	10	10	9	9	9
..	..	..	..	..	..	..	..		..	..	..	..	..	..	..
30	05	50	35	15	00	00	00		10	10	50	20	00	00	00
12	11	11	10	10	10	10	10		11	11	10	10	10	9	9
..	..	..	..	..	..	..	..		..	..	..	..	..	..	..
00	50	05	50	35	00	00	00		55	10	50	50	00	50	00
	自由遊び	おやつ	童話	談話	整頓	自由遊び	登園		帰宅	製作・作業	おやつ	おはなし	リズム	整理整頓	自由遊び
	ゲーム・リズム														登園

12	13	13	14	14	15	15
..	..	..	..	..	..	..
00	00	13	30	30	00	00
13	00	13	30	30	00	00
..	..	..	..	..	..	..
00	00	30	30	00	00	00
	おべんとう	おはなし	昼寝	総整理	総整理	帰宅

これは、ふつうの機関での一例であるが、比較的教師のおはなしや童話など静的な時間が多いのがめだつ。これは教師担当幼児が、四〇名基準で多いのと、設備や資料の不足。また教師の資質にもよるものとおもわれる。幼児の自由よりも教師の統制が多いという感じである。

ともかく、韓国の幼児教育が急速度に発達しつつあることはのぞましいが、今一ばん憂慮するのは、量的な拡大と質的な充実の不均衡である。これは、韓国の幼児教育関係者がだれも認めていることだし、解決に尽力するため協力をもとめてもいるので、よい方にむかうだろうと楽観的な期待で、みずから気やすめをするほかないと思う。

「了」(梨花女子大学校)